

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 6日から10日にかけて、低気圧がオホーツク海からカムチャツカの東へ進み、大陸からの高気圧が日本付近に張り出す。冬型の気圧配置が続き7日頃は冬型の気圧配置が強まる。

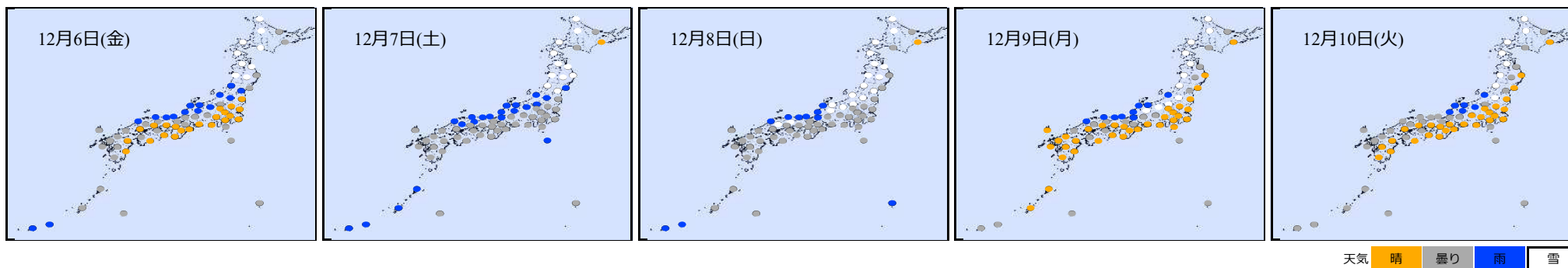
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。
- 7日頃からは、強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まる。北・東日本の日本海側を中心に荒れた天気となり、降雪量が多くなるおそれもあるので、今後の予想に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

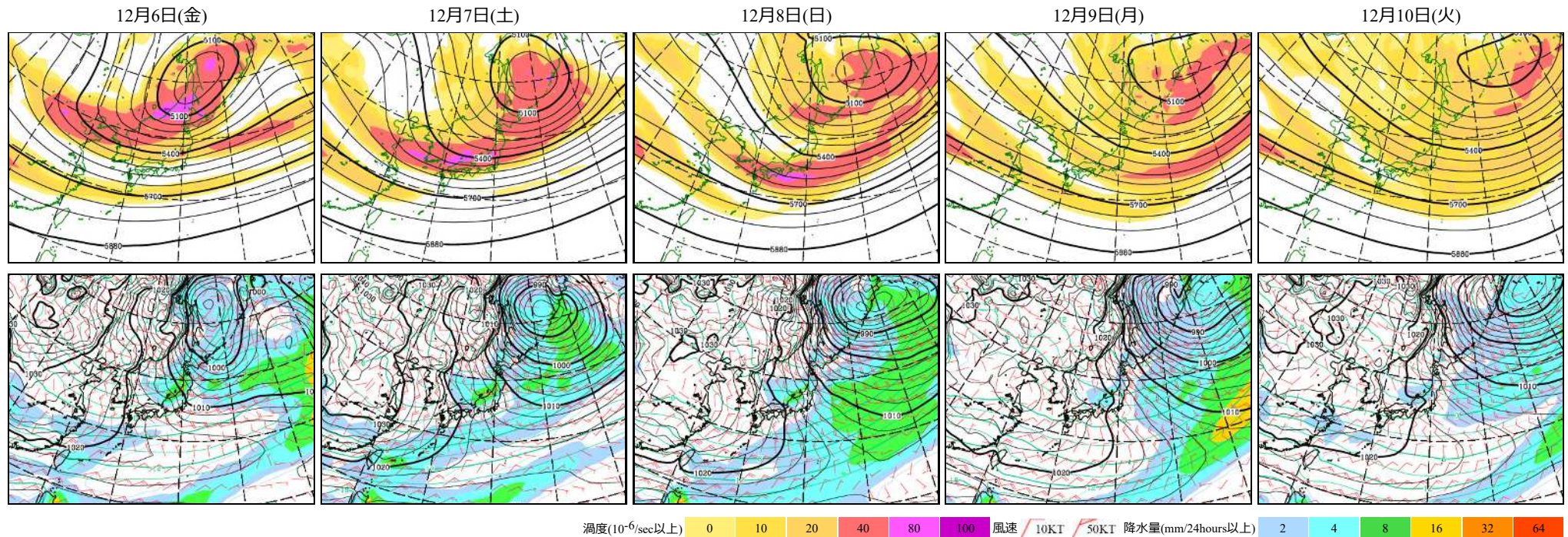
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

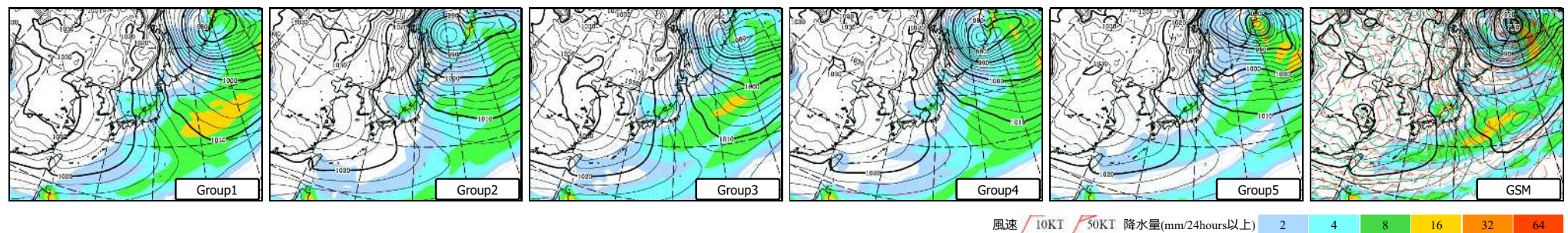


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多いが9日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月8日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日から7日にかけて北・東日本付近を通過する気圧の谷の東進が早くなった他は大きな変化はない。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。